

特集・黒埼のかたりべ

語り継ぐ民話 語り継ぐ民話

先号から「黒埼のかたりべ」を連載しています。これは、黒鳥小学校の児童が冬休みに家の人から聞いてまとめたものです。

今はもうだれも…

民話——それは語り継がれるもの。昔話——知らない人はいないでしょう。「桃太郎」や「舌切り雀」を。何百年もの間、口と耳でできた文学。

そして、この黒埼町にもたくさん民話や昔話、伝説があり、知っている人も多いでしょう。しかし、今はもうだれも、語る人も、聞く人もいなくなつてしまいました。

本町を取り巻く環境は急激に変わるうとしていきます。それはだれの目にも明らかです。黒埼町だけではありませぬ。高度経済成長を遂げ、物質的に豊かになりました。ところが、その反動ともいえるべき

数々の問題が持ちあがっていることもまたみなさんは知っていられるでしょう。たとえば公害など。

もつと身近を見てみましょう。家庭——家庭から何か失くつていないでしょうか。自動車はある。テレビもステレオも。だいいち、毎日、ごはんが食べられる。それだけでもとても幸せじゃないか。その通りですが、目に見えないものはどうでしょうか。

黒鳥小学校の山崎俊一校長先生は、家庭での団らんが失われたと感じています。それは、「事実」でしょう。黒鳥小学校の子供たち(三〜六年生)は冬休みに「会話」しました。それは、「事実」です。

子供たちの会話の相手はお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、隣りの人、親せきの人。会話の内容は、民話、昔話や体験談など。ふだんは、あまり話をしない子供もいたことでしょうか。学校の宿題ですから話さないわけにはいきません。

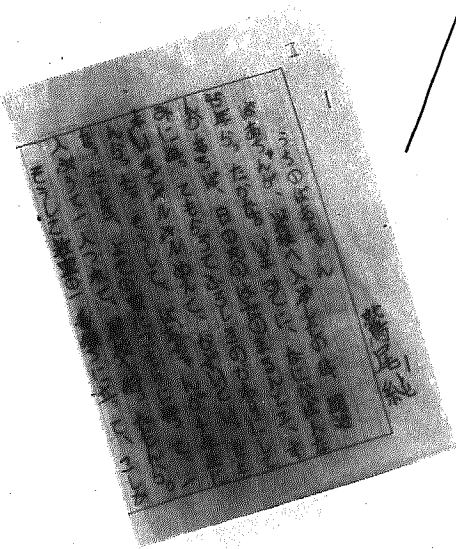
この宿題は山崎先生の発案です。先生

は、「一つは民話などを知ること。もう一つは会話することが目的」と話しています。(インタビュー参照)

そして、六十七点の原稿が集まりました。おじいさん、おばあさんがいなかったり、話を聞くことができなかった子供は本を読んでもよみました。

家の人から聞いて、それをまとめる宿題は、単なる宿題に終わらなかつたはず。子供たちは、会話しました。当たり前のことですが、その当たり前のことが「宿題」となるのです。

親や祖父母と会話をしようとして先生が「宿題」を子供たちに与えるという時代なのです。現代はテレビのアニメーションでなくて、肉親、知人から聞いたことが貴重なのです。



団らんの主役はテレビか？

一言で民話、昔話と言ってもいろいろにバラエティにとんでいます。三年生から六年生の六十七人の子供たちはどんな話を聞いたのでしょうか。

大きく三つに分けられます。一つは黒鳥や黒埼町のいわばふるさとの民話や伝説。二つめは、黒埼町以外の一般的な民話、昔話。三つめは、話した人の体験談や明治大正時代の話などです。

ふるさとの民話や伝説には、有名な黒鳥兵衛の伝説、越後七不思議の一つ焼鮎、木場のかみさまなどが多かったようです。一般的な民話、昔話は、新潟県にはどの地方でも多い「おすぎとお玉」「狼の嫁さかし」の他「雪太郎」「鬼バ

バと小僧」「へえこき姉さ」「カカむこ(前号で掲載)などがありました。前者二つの話が多かったのですが、もう一つ新潟県には多いねずみの話がありまかせんでした。

三つめの体験談ですが、クマやちと呼ばれる地名の話や、戦争の話、またお父さん、おばあさんが子供のころの話などがありました。みなさんの知っている話、聞いたことのある話、あつ似てるなあと思う話などがあると思います。子供たちは、こう言っています。「初めて聞いた。本を読んだり、テレビを見たりするけど、話を聞くこともおもしろかった。(六年保瀬智恵子さん)

うちのばあちゃん



黒鳥小三年 鷲尾 純

ばあちゃんが、学校へ入学したのは、明治四十五年らったかな。いまみては、なにカバンなんかならば、日の丸のはたのまふろしきのかわりにして、本いられてキルキルめえて、かづいていったもんなら。そうして、ばあちゃんが四年生になつたとき、その家にこもりに行つて一人ぶうて一人つれて、学校へ行つたもんなら。

どねるまで、まつくれそとに出しておつかねかつたわ。なに学校の本なんかひらいたことあるばそれとも六年までそうやって学校行つて、ばあちゃんが、いつばいこと休んでそつぎようできねとわりすけ、その家の人が学校へなし持つて行つて、おねがいで、どうにかそつぎようさせてもらったもんだ。

ばあちゃんの兄弟は十一人でむかしは、女なんかべんきょうしんたつてもいいというかんげだつたもんだ。ばあちゃんの兄弟でも男の子は高等かまで行つて、海ぐんやこのえ兵になつて男の子と女の子では、すこくちごたもんだ。

聞いた人 おばあちゃん

※1キルキルめえて——きりきりまいて

※2ぶうて——おんぶして

※3うるせすけ——うるさいから

※4このえ兵——天皇などのえらい人を守る人。

批評 今は男子も女子も高校や大学に行けますが、昔はそうでなかつたんですね。